

平成 24 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	県北地域におけるりんどう「いわて夢あおい」露地トンネル栽培の不織布被覆期間およびその効果		
[要約] 県北地域において「いわて夢あおい」を、3月下旬から5月中旬に不織布被覆による露地トンネル栽培した場合、草丈は伸長する傾向にあるが、開花促進効果は1~3日程度の前進にとどまる。					
キーワード	りんどう	開花調節	露地トンネル	県北農業研究所 園芸研究室	

1 背景とねらい

県北地域では「いわて夢あおい」は7月中旬出荷期となり新盆需要期の7月上旬に間に合わないため、従来から出荷期を早める目的で不織布を用いた露地トンネル栽培を行う事例があるが、その効果が明らかになっていない。

そこで、「いわて夢あおい」を不織布被覆で露地トンネル栽培する場合の被覆期間および効果を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 不織布被覆による露地トンネル栽培で、生育全般の草丈は伸長する傾向にある(表1、表2、表3)。
- (2) 不織布被覆は、3月下旬の萌芽期に開始し、被覆資材に頂部が接しない5月中旬前後までとする(表4)。
- (3) 不織布被覆による露地トンネル栽培した場合、採花盛期で1~3日程度の開花前進効果にとどまる(表4)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 県北農業研究所(標高240m)で、不織布「パオパオ90」を使用した場合の結果である(図1)。
- (2) トンネル被覆時に薬剤を散布する場合は、トンネルを開けて散布すること。
- (3) 葉の先端が不織布に接触すると、葉が不織布に絡まって傷むので、生育に応じて上げること。頂部が被覆資材に接する場合は早期撤去も検討すること。
- (4) 開花前進効果は露地トンネル栽培における不織布被覆より保温効果が高いと考えられるハウス栽培が有効である(参考文献(2))。

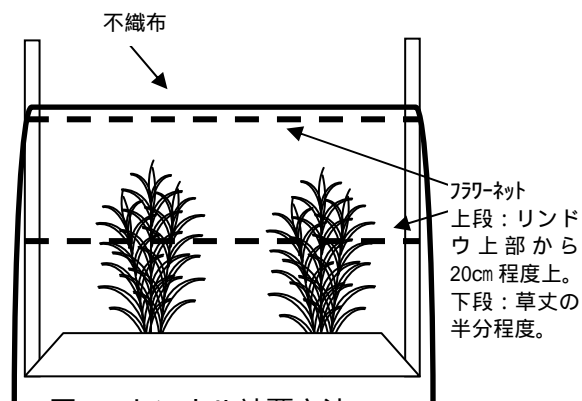


図1 トンネル被覆方法

使用資材は「パオパオ90」。フラワーネットを2段設置し、その上から被覆し、畝両脇、トンネル前後はピンで固定した。りんどうの生育に合わせ、ネットとともに被覆を上げた。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県北地域で栽培指導を行う農業普及指導員および営農指導員
- (2) 期待する活用効果 「いわて夢あおい」の7月盆出荷向け作期前進

5 当該事項に関する試験研究課題

(H22-08) 県北地域におけるりんどうの収益向上

6 研究担当者 鹿糠美雪

7 参考資料・文献

- (1) りんどう「極々早生6」育成系統の特性(平成15年度研究成果)
- (2) りんどう極早生種 キュースト の半促成栽培における栽培特性(平成21年度研究成果)

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 試験区の概要

試験区		トンネル被覆			被覆期間の有効積算温度()	備考
		開始日	終了日	被覆日数		
H22	被覆	3/1	5/31	91	702.1	5年株
	被覆	3/31	5/31	61	687.1	
	無	-	-	-	629.5	
H23	被覆	3/25	5/31	67	725.5	2年株
	被覆	3/25	5/16	52	721.8	
	無	-	-	-	661.4	
H24	被覆	12/7	5/16	161	871.1	3年株
	被覆	4/2	5/16	44	866.6	
	無	-	-	-	785.9	

注1) 有効積算温度は平均気温 0 ~ 22 以下を有効温度として積算。22 以上は抑制として、その差を 22 から差し引いて計算。

注2) 温度測定開始日 H22/3/5、H23/3/25、H24/1/18、終了日は 5/31

表2 生育量の推移

		5月16日		6月1日		6月16日		7月1日	
		草丈	節数	草丈	節数	草丈	節数	草丈	節数
H22	被覆	43.3 *	10.8 *	73.3 *	16.3 *	94.3 *	19.4 *	109.6 *	20.9 *
	無	27.7	8.3	47.9	13.8	65.8	17.3	78.8	18.7
H23	被覆	36.9 *	11.2 *	52.4 *	13.3	61.9	15.0	63.8	15.4
	無	30.9	10.5	46.8	13.1	59.4	14.6	63.1	15.4
H24	被覆	34.6 *	10.6 *	45.1 *	13.2	57.2	15.1	67.8	16.4
	無	25.6	9.5	38.4	12.4	51.7	14.7	61.6	16.2

注) *被覆の有無で、5%水準で有意差有り

表3 被覆の有無による切り花品質の差

試験区		平均(cm)	階層別割合(%)				花段数
			80cm以上	70cm以上 80cm未満	60cm以上 70cm未満	60cm以下	
H22	被覆	105.6 a	100	0	0	0	3.7 a
	被覆	110.8 a	100	0	0	0	4.2 a
	無	82.9 b	50	50	0	0	3.5 a
H23	被覆	64.0 a	0	10	70	20	3.1 a
	被覆	62.6 a	0	20	50	30	2.8 a
	無	62.0 a	0	20	30	50	3.1 a
H24	被覆	78.2 a	20	80	0	0	3.7 a
	被覆	78.0 a	50	40	10	0	3.8 a
	無	70.4 a	20	20	50	10	3.4 a

注) 数値右の同一英文字は同一圃場において 5%水準で有意な試験区間差が無いことを示す(Tukey 法)。

表4 被覆の有無による生育ステージの差

試験区		萌芽期	展葉期	側芽発生期	発蕾期	採花期		
						始期	盛期	終期
H22	被覆	4/3	4/12	6/5	6/10	7/13	7/18	7/26
	被覆	4/5	4/13	6/6	6/17	7/14	7/19	7/31
	無	4/5	4/19	6/7	6/14	7/15	7/21	7/28
H23	被覆	-	-	5/25	6/6	6/29	7/9	7/15
	被覆	-	-	5/20	6/5	6/27	7/8	7/16
	無	-	-	6/1	6/7	6/30	7/10	7/18
H24	被覆	4/11	4/17	6/9	6/20	7/12	7/18	7/28
	被覆	4/11	4/14	6/8	6/19	7/12	7/18	7/24
	無	4/17	4/24	6/10	6/20	7/14	7/19	7/27

注) 採花期は採花期到達株率 10%始期、50%盛期、90%終期を示す。